

## m-ECT施行症例の続報および再燃を繰り返す二症例の検討

五稜会病院  
古根高・佐野樹・小野澤淳(現、旭川赤十字病院)  
富永英俊・鈴木健史・中島公博・千丈雅徳

## 症例の概要

- 平成18年4月～平成20年3月(2年間)
- 施行患者総数 50名 (男 17名、女 33名)
- 内2名は二度、1名は三度、1名は四度にわたって施行
- 延べ57症例に関して検討(外来での維持療法は除外)
- 年齢は、14～66歳(平均 44.5歳)
- 統合失調圏(F2)36症例(63%)、気分障害圏(F3)19症例(33%)、その他(F1)(F6)各1症例
- 1クール5回とし、1症例につき1～3クールで施行
- 全症例において、重篤な合併症はなく、少数の症例で軽い健忘や頭痛などの副作用を確認

## パルス波刺激装置(サイマトロン)の導入

- 平成18年度は、サイン波刺激(100ボルト、5秒)
- 平成19年4月からサイマトロンを導入
- 以降、基本的にはサイマトロンで施行を開始
- 20秒以上のけいれん(波)を以て有効なけいれん時間
- 出力30%以下(あるいは年齢/2)から開始して有効なけいれん時間が得られなければ20%前後で増量
- 出力100%でも有効なけいれん時間が得られなければサイン波刺激に移行

## 施行回数とパルス波導入後の刺激方法

施行回数	症例数
～ 2	4 症例 (7%)
3～ 5 (1クール)	37 症例 (65%)
6～ 10 (2クール)	15 症例 (26%)
11～ (3クール)	1 症例 (2%)
全症例	57 症例

刺激方法	平成19年度
パルス波	17 症例 (50%)
パルス波→サイン波	7 症例 (21%)
サイン波	10 症例 (29%)
全症例	34 症例

## 状態像と適応判断

状態像	症例数
幻覚妄想状態	18 症例 (32%)
緊張病・昏迷状態	20 症例 (35%)
抑うつ状態	16 症例 (28%)
躁状態	2 症例 (4%)
慢性疼痛	1 症例 (2%)

適応判断	症例数
薬物抵抗性	35 症例 (61%)
希死念慮	10 症例 (18%)
治療的介入困難	3 症例 (5%)
積極的適応	9 症例 (16%)

## 効果判定

効果判定	症例数
無効	5 症例 (9%)
有効	15 症例 (26%)
著効	33 症例 (58%)
判定不能	4 症例 (7%)

状態像(全症例)	有効症例	著効症例
幻覚妄想状態(18症例)	7 症例 (39%)	7 症例 (39%)
緊張病・昏迷状態(20症例)	4 症例 (20%)	15 症例 (75%)
抑うつ状態(16症例)	4 症例 (25%)	9 症例 (56%)
躁状態(2症例)	なし	2 症例 (100%)
慢性疼痛(1症例)	なし	なし

### ECTフローシート(主治医用)

患者ID: \_\_\_\_\_ ECT開始日: 平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日  
 患者名: \_\_\_\_\_ 主治医: \_\_\_\_\_

1. 適応・術前評価  
 ((診断名))  
 ((状態像)) 不安状態・抑うつ状態・躁状態・幻覚妄想状態・慢性疼痛  
 緊張病状態・昏迷状態・希死念慮  
 その他( )  
 ((ECT選択理由)) 緊急性・薬物抵抗性・(拒薬など)治療抵抗性・維持療法として  
 その他( )  
 ((術前評価項目)) 疎通性: 良好・やや不良・不良  
 現実検討能力(病識): 良好・やや不良・不良・判定不能  
 ((リスク評価)) 全身状態: 良好・不良( )  
 心循環器系リスク: 低い・高い( )  
 アレルギー・喘息の既往: なし・あり( )  
 その他身体的問題(緑内障など): なし・あり( )

月 日	本箱刺激: 通電時間 5 秒 100 Volt	秒	有効	無効	無反応
	サイマトロン刺激: Ω %	秒			
備考欄(リリクスなど)					
月 日	本箱刺激: 通電時間 5 秒 100 Volt	秒	有効	無効	無反応
	サイマトロン刺激: Ω %	秒			
備考欄(リリクスなど)					

<効果判定> 判定日: 平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日 主治医: \_\_\_\_\_

状態像全体: 著効・有効・やや有効・無効  
 疎通性: 良好・やや不良・不良  
 現実検討能力(病識): 良好・やや不良・不良・判定不能  
 (状態改善時) 改善前の状態に關する記憶: 良く覚えている・曖昧・覚えていない・判定不能

ver2.0(0804)

### 再燃を繰り返す二症例

<症例1>

- 初診時58歳女性、病名は統合失調感情障害
- 当院初診10年前に、うつ病の診断で通院治療の既往
- 当院では、躁状態から幻覚妄想状態へ、その後は不安・焦燥が強くなり緊張病状態を繰り返す

初診後の月数(入院)	1M (1回目)	4M (1回目)	11M (2回目)	18M (3回目)	21M (4回目)
状態像	躁・幻覚妄想状態	緊張病状態	緊張病状態	緊張病状態	緊張病状態
薬物療法	有効	無効	有効	無効	—
m-ECT	未実施	著効	未実施	著効	著効

- 23M~37Mまで、毎月一回の定期的維持療法(外来)を施行
- 途中29M・35Mに病状悪化で各1クール施行
- 以降38M・39M・42Mに緊張病・躁状態で入院を繰り返し、各1クール施行

### 再燃を繰り返す二症例

<症例2>

- 初診時65歳女性、病名はうつ病性障害
- 以前にうつ病で通院治療の既往があり、夫が亡くなってから再び抑うつ状態に
- 当院初診時、反応が乏しく亜昏迷状態
- 入院治療開始後、自責的言動・罪業妄想・希死念慮を認め、その後再び悪化して昏迷状態に陥り、m-ECTを検討
- 入院4M・6M・11Mに各1クール施行後、定期的維持療法(入院)を施行

入院月数	4M	6M	11M	12M	13M	14M	15M	16M
状態像	昏迷	昏迷	昏迷	(維持)	(維持)	(維持)	(維持)	昏迷
m-ECT (効果)	5回 (無効)	5回 (著効)	5回 (著効)	1回	1回	2回	2回	3回 (著効)

- この間の薬物効果は乏しく、定期的維持療法後半からは1-2ヶ月で疎通性が低下しては昏迷状態を繰り返した

### 再燃を繰り返す二症例の検討

- 症例1は、緊張病状態・躁状態を繰り返し、m-ECTが著効する一方薬物抵抗性で、m-ECT施行回数が延べ40回以上に
- 症例2は、うつ病性昏迷を繰り返し、同様にm-ECTが著効する一方薬物抵抗性で、m-ECT施行回数が延べ24回に
- m-ECT後の改善期間が、当初は数ヶ月にわたっていたものが、次第に1-2ヶ月に短縮化して患者にも負担
- 今のところ明らかな副作用を認めないが、m-ECTを長期・多数回重ねることによる影響が懸念
- 薬物療法による改善を継続的に模索

### まとめ

- 平成18年度から19年度にかけての当院でのm-ECT施行症例を報告し、その有効性を検証
- 併せて、パルス波刺激装置導入による平成19年度の流れを報告
- m-ECT著効・薬物抵抗性ゆえに再燃を繰り返して難治化している二症例を検討